

牧師室から(2020.7.19)

先々週土曜日の夜は、激しい雨に度々の稲妻と雷があった。続く雨で家族や家を失った人々のことを思うと胸が詰まる。9年前の東日本大地震津波の時の体験がよみがえてきて、なかなか眠れない私のそばで、ワンチャンであるアイネがパニック状態になっていた。雷の音に怯えて体全体を激しく震わせながら、舌を長く出し息が荒くなっている。前足で私の体をしきりに掻きながら急がせている。多分、雷がないどこかに行かせてほしいと言っているのだろう。実際に、雷に驚いて家を飛び出たり、高いところから飛び降りて、犬が迷子になったり、事故に遭うケースもあるらしい。苦しむ姿をみると、何とかしてあげたいが私にはできない。この世のどこにも雷を避ける場所がないことをこの犬は知らない、飼い主がいるこの家が一番安全であることを知らないのだ。

これは我が家の犬の話だが、ある面、私たちも現実が苦しい時、絶えられない試練の中、安全で休めるどこかを求めて逃げ出したくなる時がある。現実から目をそらし、楽しそうに見える何かに惹かれてしまう誘惑が私たちの人生には潜んでいる。厳しい迫害の中、そのような誘惑にさらされていたローマの教会の信徒たちに使徒パウロは「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。(ローマ 12:12)」と勧告している。なぜなら、この世のどこにも私たちが休めるところはない。神様の御手のうちにのみ安全があるから。

詩篇記者は言う。「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。(詩篇 46:2)」

(鈴木善姫牧師)